

第3回佐賀市くらし・環境分科会 議事録

- ◆ 日時
令和6年7月30日（火）14:00～15:30
- ◆ 会場
佐賀市役所 本庁舎 南棟4階 大会議室
- ◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は分科会長
有田武史、◎猪八重拓郎、内川実佐子、大江登美子、かくもとしほ、上赤博文、北原奈津紀、高田理世、筒井洋平、内藤正隆、溝上良雄
- ◆ 欠席委員（敬称略、五十音順）
0名
- ◆ 事務局
稲又都市戦略部長、江頭建設部長、宮崎環境部長、上野総務部副部長、
豊田都市戦略部副部長、梶山環境部副部長、馬場環境部副部長、福田都市政策課長、
溝口交通政策課長、澤野道路整備課長、栗山河川砂防課長、中島生活安全課長 外
- ◆ 傍聴者
0名
- ◆ 議事要旨
 - 1 開会
 <<説明>>
 ○パブリックコメント・市民説明会の結果について説明（事務局）参考資料
 - 2 議事
 - (1) 政策「生活・環境」「防災・安全」「都市・交通」について
 <<説明>>
 ○「生活・環境」の計画修正案に関する説明（事務局）資料1

 <<意見交換等>>
 ○分科会長
 ただいま、「生活・環境」の計画修正案について説明が行われた。この内容について

て、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

計画修正案（資料1）No. 10の生物多様性に関する修正案の説明があったところだが、いま、既に損なわれつつある自然もあるため、「自然再生」の文言を付け加えてほしい。

○事務局

意見を踏まえて修正する。表現については、分科会長と調整させていただきたい。

○委員

基本構想のうち、将来像に記載されている「美味しい食事に囲まれている」とはどのような意味か。

○事務局

「佐賀らしさ」を考える上で、高校生ワークショップ等で佐賀は良い食材に恵まれていることが強みだとの意見が出ており、美味しい食事が生活に根付いている、という意図を込めて表現している。

○委員

食事に囲まれている、という日本語に少し違和感があったため、質問させていただいた。

《説明》

○パブリックコメントによる計画修正案「序論・基本構想」・「生活・環境」の説明（事務局）資料2

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、パブリックコメントによる計画修正案「生活・環境」について説明が行われた。この内容について、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○意見なし

《説明》

○「防災・安全」の計画修正案に関する説明（事務局）資料1

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、「防災・安全」の計画修正案について説明が行われた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○意見なし

《説明》

○パブリックコメントによる計画修正案「防災・安全」の説明（事務局）資料2

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、パブリックコメントによる計画修正案「防災・安全」について説明が行われた。この内容について、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

パブリックコメントによる計画修正案（資料2）No. 3について、修正内容は問題ないと考えるが、激甚化という言葉の意味を考える必要があると思う。

近年、1か月の降雨量が1日で降ってしまうこともある。地震においても、佐賀は地震が少ないとされているが、佐賀の直下でないとしても、近隣の福岡などの地下に活断層は多くあり、それが動くとするると相当な被害が出る。

能登半島地震では、液状化、津波、土砂災害、それから火災と地震で考えられるすべての災害が発生した。そのため、地震災害が激甚化しているというイメージがもたれている。今後地震による大きな被害が起こる可能性も十分考えられるため、広く考える必要がある。

《説明》

○「都市・交通」の計画修正案に関する説明（事務局）資料1

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、「都市・交通」の計画修正案について説明が行われた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

計画修正案（資料1）No. 22について、「①道路ネットワークが充実することで、移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO2排出量の削減に寄与します。」となっているが、充実した結果を述べている印象がある。本来は充実するための取組を記載する必要があるのではないか。

○事務局

道路ネットワークを整備することで、CO2削減の効果に寄与する、ということ表現したいと考えている。

○分科会長

「することで」という表現は、読む人によって印象や捉え方が違う可能性もあるのではないか。

○事務局

ご意見を踏まえ、「移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO2排出量の削減に寄与する道路ネットワークを充実させます。」という表現に修正させていただきたい。

○委員

災害時にアナログでもコミュニケーションを取れる体制を整備すべきである。デジタルに頼りすぎていると、災害時に電気が使えなくなった際、情報が取得できず、何もできなくなる。最低限のアナログのコミュニケーション手段をベーシックにしておくべきである。

○分科会長

デジタル化も大事だが、基本的なところは残した上でデジタル化を図ることが大切だと考える。

《説明》

○パブリックコメントによる計画修正案「都市・交通」の説明（事務局）資料2

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、パブリックコメントによる計画修正案「都市・交通」について説明が行われた。この内容について、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○意見なし

○分科会長

そのほか、全体的に意見等があれば伺いたい。

○委員

計画修正案(資料1)No. 5について、「佐賀市の多様な自然や生態系について学び、」の中の「学び」という表現が強いと感じる。もう少しやわらかく、「関心をもち」「知り」「理解し」のような表現でもいいのではないか。

○事務局

「学び」だとハードルが高く感じるため、表現について再検討する。表現については、分科会長と調整させていただきたい。

○委員

パブリックコメント・市民説明会の結果(参考資料)について、参加者の詳細を伺いたい。

○事務局

公表していた開催情報を見て来た人がいたり、その会場にいた人が説明会を聞きに来たり、多数の方に参加いただいた。また、各政策に対する意見を記載する付箋の色で年齢を区別するようにし、自己申告制ではあるが、意見をいただいた方については、年代別で結果を把握できるようにした。

○委員

パブリックコメントで出た意見をみると、市民の関心は自身の身の回りのことに向く傾向があり、環境への関心が薄いと感じる。環境保全が大事だということは皆が把握しているものの、優先順位が低いため行政が意識して施策を推進する必要がある。

○委員

佐賀市内でペットを遺棄する人が増えている。適正飼育以前に、飼育する前の命に対する意識付けや適正判断ができるようにすることが大切だと考えるため、そのような文言を入れたらどうか。

○事務局

総合計画では「適正飼育」という言葉に含めて整理している。個別計画で、委員の意見を参考に整理したい。

○委員

パブリックコメント・市民説明会の結果（参考資料）について、主な意見に「障害者が安心して過ごせる場所」があるが、障がい者だけでなく、高齢者や小さい子どもを抱えた親などが安心して避難できる場所を整備してほしいと思う。高齢化が進み、避難場所がないために地域同士のコミュニケーションが作られているのは良いが、その方たちを誰が助けるのか、という課題がある。総合計画の中でなくても良いので、対策を検討してほしい。

○委員

ハザードマップで危険な地域と示されているのにも関わらず、開発をしている民間企業が多い印象であるが、行政はどこまで関与できるのか。

○事務局

市街化区域は市街化を促進する区域であるため規制は行っていないが、市街化調整区域に関しては、避難計画を立ててもらうことを条件に開発を許可するなど、対策を行っている。

○委員

アプリやハザードマップなどの色々な情報媒体があるが、例えばアパートでは0.5～1m浸水してしまうと電気や水道はほとんど被害を受ける。ハザードマップやアプリを作れば防災対策が完成するわけではなく、それらはあくまでも手段である。一番の目的である市民の安全を守るための施策を考えることが重要であると思う。総合的な見方が必要だと考える。

○委員

地域での防犯活動は、コミュニティができてこそだと思っている。学校では知らない人と関わらないように教えており、地域の人を知ることからは遠ざかっていることが引かかる。高齢者であっても他人に対して知らない顔をしている人が多い現状であるため、地域内の人がもう少し関わりあえるような取組を推進してほしいと思っている。それがベースにあつてこそ防災が強化されるのではないか。

3 閉会